

雲南市立病院後期研修プログラムワーキンググループの活動について

勝部 琢治¹⁾²⁾、奥田 淳三¹⁾³⁾⁴⁾

キーワード：総合医・家庭医教育；日本専門医機構認定専門医；専門研修プログラム連携施設
(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 187-188)

はじめに

雲南市立病院後期研修プログラムワーキンググループは、平成27年(2015年)4月に設置された。

ワーキンググループの活動の経緯

グループの主な活動内容は、当院の総合医・家庭医教育プログラムについて検討を行うことである。当時、当院は日本プライマリ・ケア連合学会認定の総合医・家庭医プログラムがあり、若手医師(後期研修医)が家庭医療専門医を取得できる環境を整備していた。そこで、より良い研修、指導体制が提供できるよう、当事者である院内の若手医師が中心となり、ディスカッションする場を設けるため、このワーキンググループができた。設立当時は、ちょうど日本プライマリ・ケア連合学会の認定プログラムがバージョンアップされるに伴い、新たな研修プログラムを検討する必要があり、奥田淳三医師(外科)を中心に、活発な議論が行われた(図1、2)。このワーキンググループで集約された意見・要望等は地域医療人育成センターへ報告・提言を行い、所長を中心に検討し、新たなプログラム認定を受けることができた。

現在の活動概要

現在、医師の専門研修は新専門医制度へと移行し、当院では新たに日本専門医機構認定の総合診療専門研修プログラムを策定し、総合診療専門医を取得できるようになっている。2019年4月には、初めてこのプログラムに坂口公太専攻医(内科・地域ケア科)がマッチし、専門研修を開始している。坂口公太専攻医が中断することなく総合診療専門医が取得でき、当プログラムで研修して良かったと感じることが、このプログラムの評価となるのではないかと考える。

このワーキンググループは「総合医・家庭医教育プログラム」について検討・協議する場となっている。医師専門研修の制度全体が大きく様変わりし、当院が基幹であるのは総合診療のみで、他科はすべて連携施設となっている。

今後に向けて

今後は、総合診療専門研修プログラム改善のための検討だけでなく、これから専攻医が当院で研修することが予想されるため、専攻医の研修環境充実のための検討・協議する場となっていくことも大事になってくるのではないかと考えている。

¹⁾ 雲南市立病院後期研修プログラムワーキンググループ、²⁾ 同事務部企画財政課、³⁾ 同外科、⁴⁾ 同地域総合診療科
著者連絡先：勝部琢治 雲南市立病院事務部企画財政課〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕
E-mail: hospital-kikakuz@city.unnan.shimane.jp

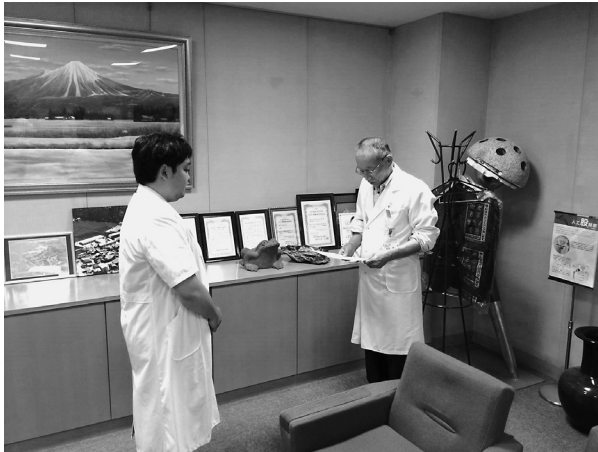


図1 ホームクリニック暖での在宅医療専門医研修を終えた笠医師



図2 医学生への実習教育も兼ねる在宅医療

Activity of the working group for senior residency program in Unnan City Hospital.

Takuji Katsube¹⁾²⁾, and Junzo Okuda¹⁾³⁾⁴⁾

¹⁾ Working group for senior residency program, ²⁾ General affairs division, ³⁾ Department of Surgery, ⁴⁾ Department of Regional General Medicine, Unnan City Hospital

Correspondence: Takuji Katsube, General affairs division, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501

E-mail: hospital-kikakuz@city.unnan.shimane.jp